

<第2議案>

2023年度収支決算（案）

8～9ページの2023年度活動計算書（自2023年1月1日至2023年12月31日）と貸借対照表（2023年12月31日現在）をもって、2023年度収支決算とする。活動計算書は、「一般会計」と2018年に設立した「次世代基金」に区分して示してある。

I 活動計算書

2023年度決算のポイントは以下の通りである。

1 収入の部

1.1 会費収入について

会費収入は対予算比約90万円の減収であり、予算執行率は79%である。

1.2 事業収入・支出について

『ピース・アルманаック2023』発行の結果、書籍販売収入は約143万円で、前年より20万円増である。

「講演・執筆」は予算比約12万円増、「情報サービス・調査受託」は予算と同額である。

1.3 寄付金収入、助成金収入について

寄付金収入は、予算比で9万円減となった。冬季カンパが43万円となった。NPT再検討会議準備委員会への海外派遣カンパは10万円に留まった。目的を持ったカンパには相当額が集まる実績が崩れた形である。

助成金では、「よこはま夢ファンド」は、2023年分として2,217,000円の寄付を受けた。前年より約27万円増だが、予算比では28万円減である。

1.4 当年度収入合計

当年度収益合計は、予算比で会費収入90万円減、助成金収入28万円減などにより予算比で約101万円減となった。

2 支出の部

2.1 事業費の支出全体としては予算比29万円減となった。

2.2 管理費支出は、全体としては約124万円減である。これは、臨時雇い賃金が約61万円減となり、主として4月よりスタッフが1名になったことによる。

これらの結果、当年度支出合計は予算比158万円減となった。

3 全体収支

2023年度の単年度収支は約57万円の黒字となり、通常会計の次期繰り越し金は約169万円となる。

2018年に創設し1500万円でスタートした次世代基金は、2023年は、脱軍備・基礎講座謝礼17万円などを支出した。基礎講座の受講料収入は約17万円であった。その結果、約987万円が次期繰り越し金となる。

II 貸借対照表

以上の活動計算書を反映させた結果、2023年12月31日現在の正味財産は、通常会計で169万円、次世代基金が987万円、合計約1,155万円となる。